主事　名井九介氏　主事　生野團六氏　編輯委員長　柴田畦作氏
編輯委員　岡野昇氏　同　吉村惠吉氏　同　直木倫太郎氏
同　宮川清氏

（八）社團法人設立

創立總會後九月三十日理事三名（古市會長沖野野村兩副會長）連名を以て東京府知事を經由して文部大臣宛法人設立を願出たる所同十一月二十四付日を以て文部大臣より社團法人土木學會設立の件許可ありたるを以て同十二月九日東京區裁判所に於て法人設立登記を濟ましたのである。

（三）本會創立後の經過

大正三年九月本會創立以來二十年を經たる今日に於て、本會發達の經過の大要を顧りみるに設立當初に於ける會員は漸く四百餘名に過ぎざりしものが今や四千名を算するのであるが、最近は一般土木技術者の入會は益々增加の傾向にあり或は機關誌の如きも當時は隔月發行のものが現在は毎月發刊とし、又其內容に至りても漸次改良を加へ來りしを以て當時のものとは隔段の相違あることを知るのである。爾來時世の進運に伴ひ我土木工學の發達は益〻本會の發展を促すこと急なるものがあり故に本

會には必要に應じ各種の調査會の設置或は各關係の向きよりの諮問に應ずる等本會の社會的活躍は益々大となつて來て居るのである。以下其大要を項を別ちて略述することゝする。

1、本會の總會

本會創立以來定款に基き開催したる總會期日及場所は次の通りである。

回數		期日	場所	回數		期日	場所
第一回	定時	大正四年一月卅日	京橋區築地精養軒		臨時	大年十四年三月十四日	麹町區有樂町帝國鐵道協會
第二回	〃	大正五年一月廿二日	〃	第十三回	定時	大正十五年一月十六日	〃
第三回	〃	大正六年一月十三日	麹町區有樂町帝國鐵道協會	第十三回	〃	昭和二年一月十五日	〃
	臨時	大正六年六月廿二日	〃	第十四回	〃	昭和三年一月廿一日	〃
第四回	定時	大正七年一月十二日	〃	第十五回	〃	昭和四年一月十九日	〃
第五回	〃	大正八年一月十八日	〃	第十六回	〃	昭和五年一月十八日	〃
第六回	定時	大正九年一月十七日	〃	第十七回	〃	昭和六年一月十七日	〃
第七回	〃	大正十年一月十五日	〃	第十八回	〃	昭和七年一月十六日	〃
第八回	〃	大正十一年一月十四日	〃		臨時	昭和七年十一月四日	〃
第九回	定時	大正十二年一月二十日	〃	第十九回	定時	昭和八年一月二十日	〃
第十回	〃	大正十三年一月十九日	〃		臨時	昭和八年十月十一日	〃
第十一回	〃	大正十四年一月十七日	〃	第二十回	定時	昭和九年二月十五日	〃

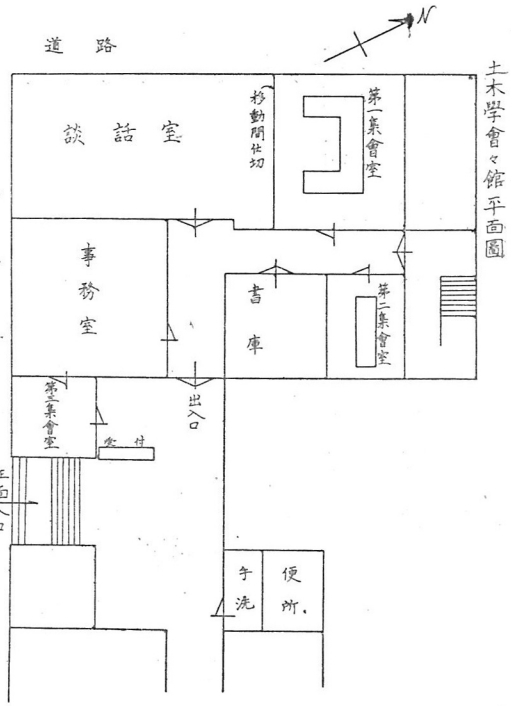
2、本會定款及規則の改正

本會創立總會に於て決議された當時の定款及規則は既に別項に掲げたるも、爾來時世の進運に伴ひ數度の改廢を經て現在の定款及規則（現行定款及規則添付省略）となれるものである、今其變更年月日を記載すれば次の如くである。

一、大正五年一月二十二日總會に於て規則一部の改正
一、大正八年一月十八日總會に於て規則一部の改正
一、大正十二年一月二十日總會に於て規則一部の改正
一、昭和七年十一月四日臨時總會に於て定款及規則の改正
一、昭和八年十月十一日臨時總會に於て定款及規則の改正

3、本會專務所の變更

本會事務所は創立當時は東京市京橋區山城町十五番地工學會事務所内に置き次で大正五年三月一日東京市麹町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會内に移し、昭和二年四月二十二日同區永樂町一丁目一番地丸ビル内に、昭和三年七月廿五日同區八重洲町一丁目一番地時事ビル内に更に昭和六年八月二日同區丸ノ内一丁目六番地ノ一海上ビル内に移し昭和九年七月二十九日現在の同區丸ノ内三丁目六番地



ユニオン館に移轉したのである、其の事務所の平面圖を上に添付することゝする。

4、本會の役員其他

本會創立以來學會の事業を遂行するために定款及規則の定むる處により毎年定時總會に於て役員其他を選擧し夫々此目的の遂行のために最善の努力を致し其結果本學會は現在の如き獨立的進歩發達を遂げて來たのである、今次に歷代の會長並に役員其他の氏名を一括表示することとする。

	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
會長	古市公威	沖野忠雄	野村龍太郎	石黒五十二
副會長	沖野忠雄	石黒五十二	古川阪次郎	長谷川謹助
〃	野村龍太郎	古川阪次郎	廣井勇	廣井勇
常議員	石黒五十二	石橋絢彦	石橋絢彦	丹羽鋤彦
〃	中山秀三郎	岡田竹五郎	長谷川謹助	吉村長策
〃	日下部辨二郎	中原貞三郎	丹羽鋤彦	中山秀三郎
〃	古川阪次郎	中島鋭治	岡田竹五郎	長尾半平
〃	近藤虎五郎	小柴保人	岡崎芳樹	久米民之助
〃	白石直治	近藤虎五郎	中原貞三郎	山口準之助
〃	廣井勇	廣井勇	中山秀三郎	近藤虎五郎
〃	仙石貢	仙石貢	中島鋭治	杉浦宗三郎
主事	名井九介	名井九介	名井九介	阪田貞明
〃	生野團六	生野團六	生野團六	生野團六
編輯委員長	柴田畦作	那波光雄	那波光雄	那波光雄
編輯委員	岡野昇	岡野昇	岡野昇	井上範
〃	吉村惠吉	吉村惠吉	樺島正義	樺島正義
〃	直木倫太郎	直木倫太郎	上野有芳	永山彌次郎
〃	宮川清	上野有芳	草間偉瑳武	上野有芳

	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
會長	廣井勇	仙石貢	原田貞介	古川阪次郎
副會長	原田貞介	中島鋭治	中島鋭治	中山秀三郎
〃	長谷川謹助	原田貞介	吉村長策	吉村長策
常議員	石丸重美	石丸重美	安藝杏一	安藝杏一
〃	吉村長策	井上秀二	大村鎗太郎	上野有芳
〃	那波光雄	岡野昇	岡野昇	大村鎗太郎
〃	中島鋭治	澤新兵衛	澤新兵衛	阪田貞明
〃	山口準之助	柴田畦作	中川吉造	富田保一郎
〃	近藤虎五郎	中山秀三郎	中山秀三郎	中川吉造
〃	柴田畦作	那波光雄	比田孝一	原全路
〃	杉浦宗三郎	比田孝一	牧彦七	牧彦七
主事	阪田貞明	阪田貞明	井上秀二	井上秀二
〃	生野團六	生野團六	生野團六	生野團六

	(囑託)			
	佐藤四郎	草間偉瑳武	佐藤四郎	後藤佐彦
		佐藤四郎	宮川清	安藝杏一
		宮川清		

	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年
會長	中原貞三郎	中山秀三郎	日下部辨二郎	吉村長策
副會長	中山秀三郎	岡野昇	市瀨恭次郎	市瀨恭次郎
〃	丹羽鋤彥	丹羽鋤彥	岡野昇	那波光雄
常議員	池田圓男	池田圓男	太田圓三	大河戸宗治
〃	稻垣兵太郎	稻垣兵太郎	金森鍬太郎	金森鍬太郎
〃	上野有芳	太田圓三	草間偉	樺島正義
〃	川上浩二郎	川上浩二郎	後藤佐彥	草間偉
〃	阪田貞明	後藤佐彥	島重治	島重治
〃	那波光雄	竹內季一	竹內季一	眞島健三郎

	安藝杏一	安藝杏一	安藝杏一	金森鍬太郎
編輯委員長	井上範	井上範	金森鍬太郎	小野諒兄
〃	樺島正義	上田武男	黑河內四郎	黑河內四郎
〃	金森鍬太郎	金森鍬太郎	永山彌次郎	牧野雅樂之丞
〃	瀧山與	後藤佐彥	森忠藏	森忠
〃	永山彌次郎	永山彌次郎	山田龜治	山口昇
〃	後藤佐彥	米元晉一	米元晉一	米元晉一

| | | |

| | | |

	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
會長	那波光雄	名井九介	眞田秀吉	久保田敬一
副會長	眞島健三郎	前川貫一	大河戸宗治	米元晋一
〃	前川貫一	大河戸宗治	米元晋一	草間偉
常議員	池田嘉六	池田嘉六	内海清温	池邊稻生
〃	木津正治	筧誠治	衣斐清香	内海清温
〃	生野團六	來島良亮	神原信一郎	衣斐清香
〃	田井九一	生野團六	黒田武定	金森誠之
〃	谷口三郎	田井九一	竹股一郎	神原信一郎
〃	橋本敬之	竹股一郎	田中豐	河原直文
〃	春木節郎	春木節郎	田邊良忠	佐藤利恭
〃	平井喜久松	三浦七郎	那須章彌	鈴木雅次
〃			三浦七郎	田中豐
〃			山口昇	田邊良忠
〃				永田民也
〃				野口寅之助
〃				古川淳三
主事	丹治經三	丹治經三	平井喜久松	古川淳三
〃	牧野雅樂之丞	牧野雅樂之丞	牧野雅樂之丞	佐藤利恭

編輯委員長	黒河内四郎	草間偉	草間偉	田中豊	
編輯委員	井上隆根	井上隆根	青木楠男	青木楠男	
〃	岡田實	岩澤忠恭	岩澤忠恭	龜田素	
〃	鈴木雅次	岡田實	久保讓	末森猛雄	
〃	高橋三郎	久保讓	關信雄	中原壽一郎	
〃	田中豊	高田清	高田清	永田年	
〃	田中寅男	高橋三郎	高橋三郎	野口誠	
〃	藤井眞透	藤井眞透	中原壽一郎	福田武雄	
〃	三浦七郎	宮本武之輔	沼田政矩	星野茂雄	
〃	山口昇	山口昇	宮本武之輔	堀越一三	

5、會員の種別及會員數

本會創立當初に於ける會員即ち發起人たることを承認されたる方は僅々三百八十餘名であつた、當時の定款及規則にある様に會員の種別としては「工學專門ノ高等教育ヲ受ケ其程度ニ依リ五ケ年乃至十ケ年以上其業務ニ從事シタル者又ハ土木工事設計ノ技能ヲ有シ五ケ年以上重要ナル工事ヲ擔任シタル者」を會員と稱し「工學專門ノ高等教育ヲ受ケタル者又ハ工學ノ知識ヲ有シ三ケ年以上土木工事ニ從事シタル者」を准員とし「工學ニ志アル者デ年齡滿三十歲迄ノ者」を學生員と稱し尙以上の他に賛助員を加へた四種類であつたのである、爾後定款及規則は數回變更され其都度其資格も多少の變遷を

見たるも現在は會員、特別員、賛助員、准員、學生員の五種類となつて居る、創立以來現在迄に於ける全會員數の增加を左に表示することゝする。同表中九年九月現在に於て會員數の增加著しきは定款及規則改正の結果會員の資格を擴張したるためと、加ふるに先年來より全國の各地に地方委員制度を設置し同委員の活動に依り增加を示したのである。

各年度末會員數

年度	會員	准員	學生員	賛助員	合計	備考
大正三年度	四四三	三八八	六二一	—	一、五三五	
〃 四年度	五二六	五二六	六五六	—	一、七二七	
〃 五年度	五四五	六〇八	六八八	—	一、八五六	
〃 六年度	五六〇	七〇八	六八三	—	一、九六四	
〃 七年度	五七三	八六五	五八七	—	二、〇四七	
〃 八年度	五九五	一、〇六八	六一四	—	二、二九八	
〃 九年度	六一六	一、一三六	五六三	—	二、四一一	
一〇年度	七一二	一、五一五	二七四	—	二、五三二	
一一年度	七四三	一、六〇二	二七一	—	二、六二三	
一二年度	七五〇	一、六七一	二二四	—	二、六五九	
〃 一三年度	七六四	一、六三六	二二二	—	二、七四一	
〃 一四年度	八八三					

昭和元年度	一、〇一一	一、六〇七	二〇八	—	二、八二六
〃　二年度	一、〇二七	一、七三六	一九三	一	二、九五七
〃　三年度	一、一四六	一、七二七	一三九	二一	三、〇三四
〃　四年度	一、一五一	一、八三〇	一一四	二一	三、一一六
〃　五年度	一、一六二	一、八六一	一六六	二一	三、二一〇
〃　六年度	一、一七三	一、八〇二	二〇〇	二一	三、一九六
〃　七年度	一、一一七	一、八八三	一九〇	二〇	三、二一〇
〃　八年度	一、一一九	一、八七一	一四七	二一	三、一五九
〃　九年九月現在	二、〇九一	一、八二九	二五二	二一	四、一九三

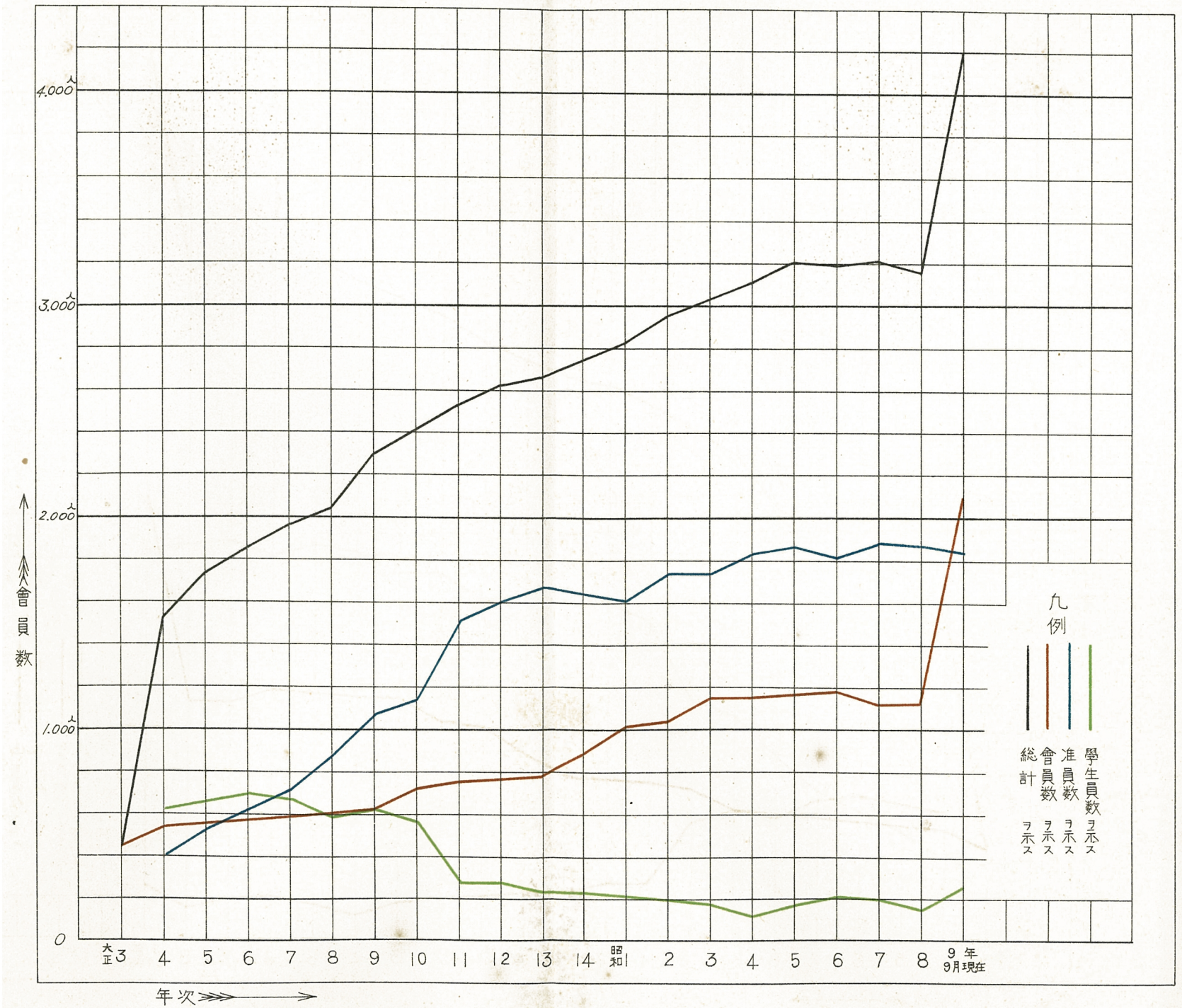
6、本會の會計狀態

本會の創立以來現在に至る迄に於ける其收入及基金並に資産は本會の發展に伴つて漸次增加を來して居るが左に各年度末に於ける決算の其狀態を揭げることゝする。

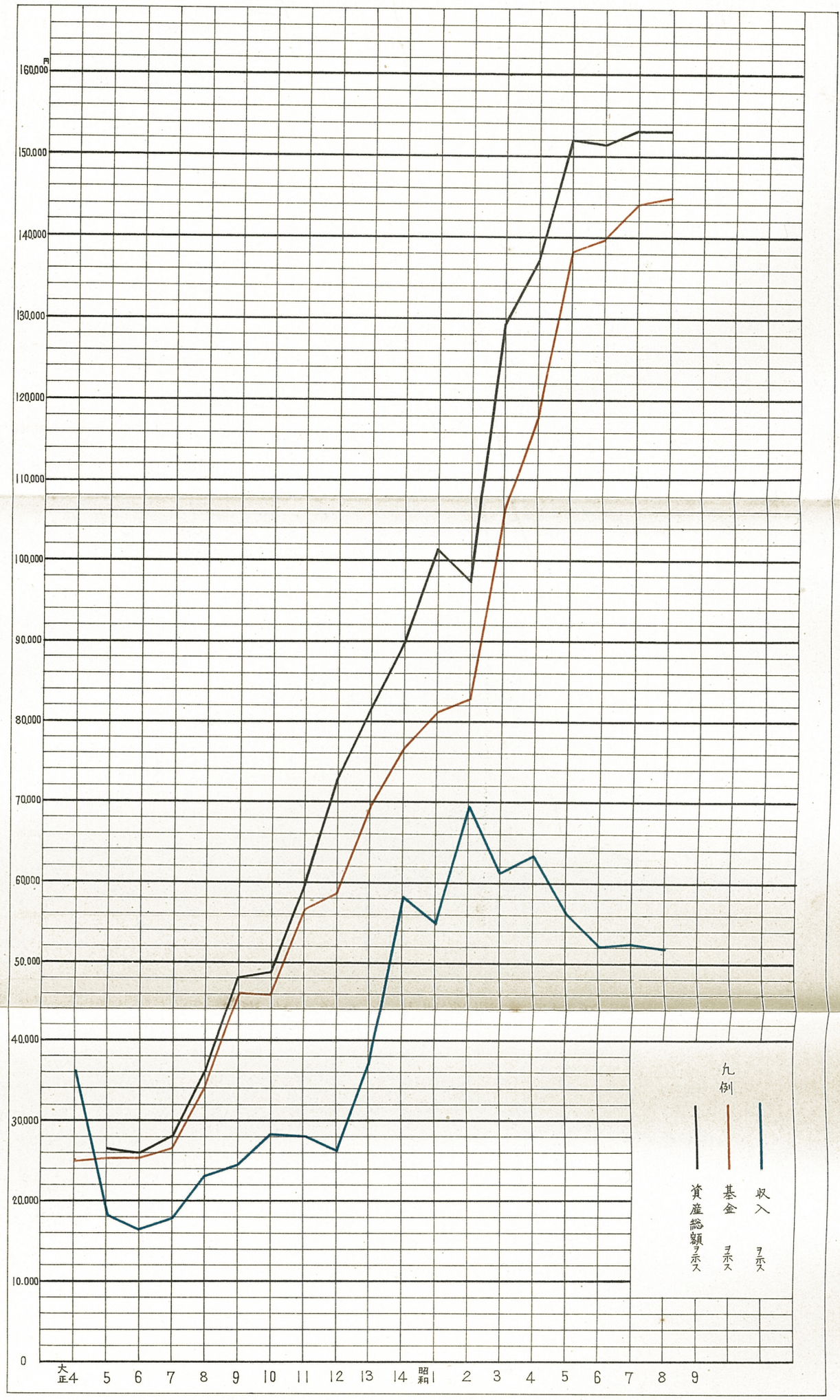
年度	收入	基金	資産總額	備考
大正四年度	三五、七九三・六四円	二六、六二一・〇六円	二四、九七四・四三円	支出は收入と同額に付省略せり
〃　五年度	一七、三三〇・四八	二六、〇〇四・二八	二五、二一五・一五	
〃　六年度	一六、〇一三・五七	二六、六一八・八〇	二五、三七三・三三	
〃　七年度	一七、七五八・九一	三四、三五一・七六	二八、一四三・六二	
〃　八年度	二二、八三一・九三	四六、二八二・五六	三六、二六六・六三	
〃　九年度	二四、三五五・〇六		四八、三六五・四一	

累年ニ於ケル會員數狀態一覽圖表

（但シ特別會員及賛助員ヲ除ク）



累年ニ於ケル會計狀態一覽圖表



〃	一〇年度	二八、〇七六・一八	四六、一九四・七四	四八、九九四・四一
〃	一一年度	二七、九六三・六一	五六、八四三・一二	五九、九一一・三三
〃	一二年度	二六、二三四・一二	五八、八五一・三五	七二、八三三・一九
〃	一三年度	三九、五〇四・八六	六九、八八一・一六	八一、八一七・九七
〃	一四年度	五八、二五三・三九	六七、八四六・七六	八九、九〇二・二八
昭和	元年度	五四、九九〇・八二	八一、四六二・四〇	一〇一、五〇八・五一
〃	二年度	六九、二五一・三九	八二、九三一・〇一	九七、四九九・九七
〃	三年度	六〇、九三六・一一	一〇六、七二四・七一	一二九、六五二・六六
〃	四年度	六三、二四九・三八	一一八、五三七・九三	一三七、三一六・〇四
〃	五年度	五六、〇七九・六九	一三八、六一三・八〇	一五二、〇二九・七四
〃	六年度	五二、〇四二・七一	一四〇、〇二三・五五	一五一、四一二・七三
〃	七年度	五二、二一三・一九	一四四、〇五七・〇五	一五三、〇二〇・四〇
〃	八年度	五一、八七七・八八	一四五、五九九・六四	一五三、一五一・八〇

(四) 本會の事業の概要

本會の會員は日本內地はもとより鮮滿、臺灣、樺太並に遠く外國に迄も亙つて居り、是等の會員に對し充分に本會の目的を徹底せしむることは容易の業にあらざるも、創立以來役員諸氏は全會員と協力一致して此目的の達成に向つて其最善を盡し來たつたのである。而して此目的のために本會は機關誌の發行及講演會を開催し會員各位の獨創的の研究、調査、其他を發表し、又毎年各地へ見學視察旅